

給食室のいちにち

のこさず食べよう

三年生

小川

佳穂

わたしは給食がすきで、よくおかわりをします。毎日とてもおいしくて、その日のこん立を楽しみにしています。でも、クラスでは食べのこしが多い時があり、その食べ物はすてられてしまうので、もったいないなと思っていました。

この本の表紙を見て、調理員さんがどのように給食を作っているのかきょう味を持ちました。毎日の給食はどのように作られていくのか、わくわくしながら読みました。

この本を読んで、調理員さんは、子どもたちに安心で安全な給食をとけるために、手あらいや身づくろいをていねいにして、心をこめて作ってくれていることが分かりました。

また、お休みの人がいるクラスの給食の分は、あまらないように他のクラスに少しずつ分けているということをはじめて知りました。

そして、食べのこしが多い時は、こん立を見直してくふうするということも、分かりました。

わたしが調理買さんだったら、いろいろなこん立を食べてすきになってほしいなと思います。きせつに合わせたえいようのあるこん立を考えるのはむずかしそうです。でも、調理買さんといえいようしさんも、子どもたちがえ顔でいろいろなこん立を食べてくれるとうれしいのだと思います。このように、調理買さんといえいようしさんが、毎日きょう力して子どもたちに給食をとどけてくれていることが分かりました。

これから、心をこめて作ってくれているということに感謝の気持ちを持って、はじめてのこん立やあまりふだん食べないこん立ものこさずに食べたいです。また、りょうをふやしたりおかわりをしたりして、クラスでは、みんなでかん食を目指して、食べ物大切にしていきたいです。